◇ 7月の天文暦 ◇

日	時	記事
4	0	地球　遠日点通過
6	8	水星　留
7	15	小暑　(太陽黄経 105°)
	17	**上弦**
13	7	月　最遠
15	21	**望**
20	15	水星　内合
23	9	大暑　(太陽黄経 120°)
	13	**下弦**
28	16	月　最近
30	4	**朔**
	22	木星　衝
	22	水星　留

☆ 原点めぐり ☆

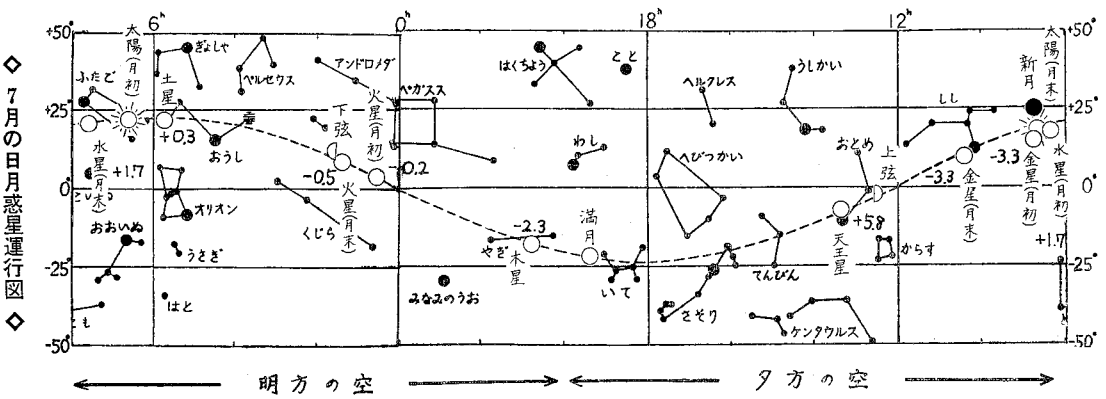
日本標準時子午線

山陽本線明石駅の東，やや小高い丘の山に時計塔を持ったファンタジックな曲線造型の建物が見える．これが明石天文科学館で，時計塔は日本標準時 (9^h UT) 子午線の通過地点を示している．

1884年（明治17年）のワシントンにおける世界標準時会議の決議にもとづき，明治19年7月12日勅令第51号によって，東経 135° 子午線の時を日本標準時とすることが決定された．この子午線がどこを通過しているかという素朴な疑問は，それが目に見えないものであるだけに人々にとっては興味あることであり，その位置に標識を作ることは教育的にも意味あることである．

これを最初に取り上げたのは兵庫県明石郡小学校長会であった．明治 43 年に郡内教員は月俸の百分の 1.5 を出し，参謀本部測量地図にもとづいて，郡内2ケ所に標識を立てた．高さ 2.7^m の石の当時の標識は現存している．これ以来明石は「子午線の町」「標準時の町」として広くPR されるようになった．

大正3年日本の地図原点に 10″4 のトットマン修正がなされた際には明石の標識はそのまま放置されていたが，昭和3年に明石市教育会の事業として新標識の建設がおこなわれた．京都大学地球物理学教室の野満隆治氏らによって明石中学（現明石高校）校庭で天測がおこなわれ，それにもとづき明石市内の小高い人丸山上と現在の国道2号線わきに新標識が建てられた．その標識も戦災で荒廃したが，昭和26年修復に際して再度天測がなされた．観測は京都大学上田穣，今川文彦，満尾寿男氏らによって当時の標識の西 9.1^m の地点で実施され，観測地点の天文経度は 134°59′59″21 であり，135° E 子午線は当時の標識より 11.1^m 東であることがわかった．天文科学館の時計塔は，この結果にもとづいて塔の中央が 135° E 子午線上にくるように建設されたのである．この位置は厳密に云えば昭和26年（1951年）5月当時の UT 0 にもとづいた位置である．また鉛直線偏差のため国土地理院地形図によれば測地経度は 135°0′14″E となっている．

なお兵庫県と京都府には数ケ所に同様な標識があるが，いずれも地図にもとづいて建られたものである．

（明石市立天文科学館　河野健三）